

日向市地球温暖化防止対策実行計画 (事務事業編)

令和5（2023）年度実績

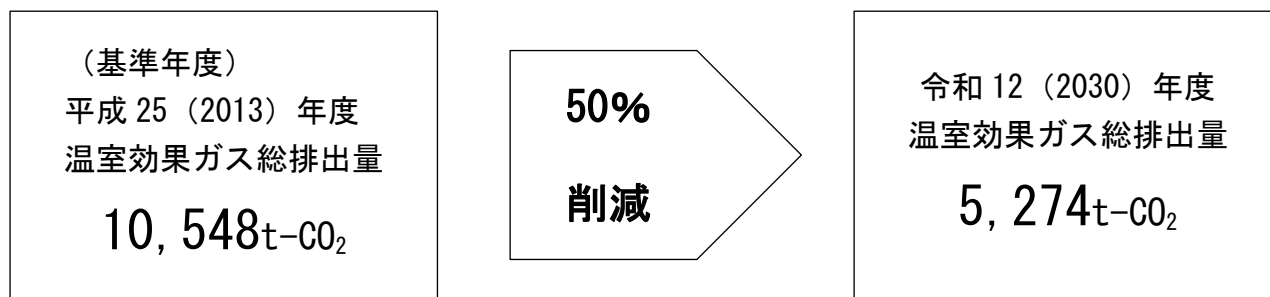
令和7（2025）年3月

日向市

1 温室効果ガスの削減目標

・温室効果ガス削減目標

市役所の全ての事務及び事業により排出される温室効果ガスの排出量を基準年度（平成 25 年度）に比べ 50%の削減を目標とします。

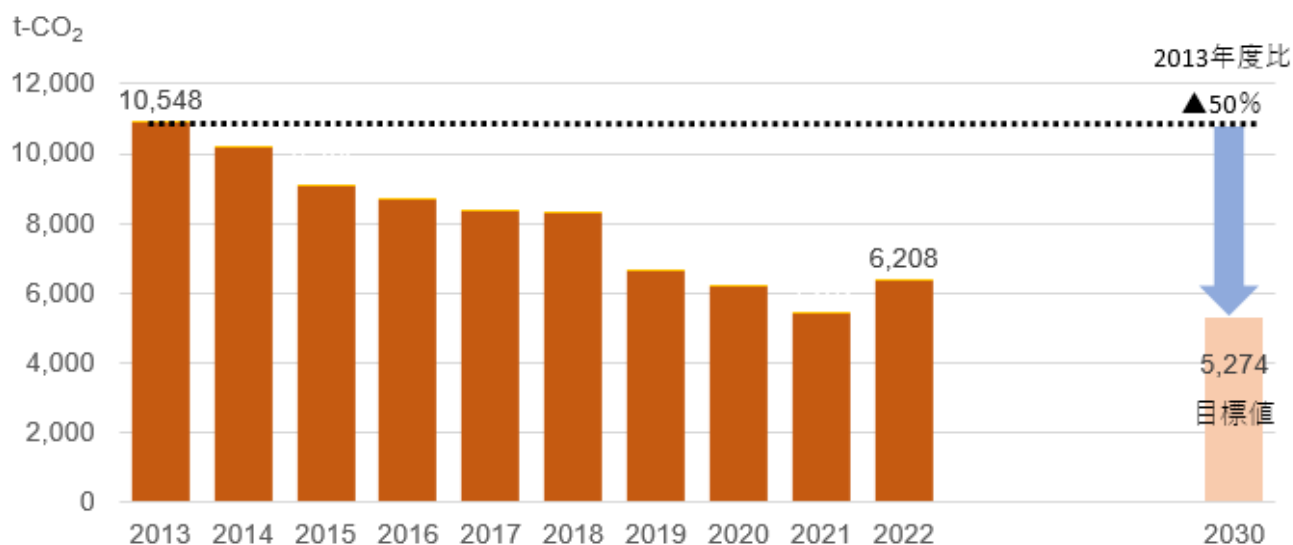


【目標設定の考え方】

「政府がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の抑制等のため実行すべき措置について定める計画（以下「政府実行計画」という。）」では、地方公共団体の事務及び事業に伴う排出の多くが該当する「業務その他部門」は、「2030 年度までに 2013 年度比 50%削減」という目標を掲げていますので、温室効果ガスの削減目標を政府実行計画と同等とします。

なお、削減目標の達成に向けては、市役所の温室効果ガスの排出量の約 95%を CO₂ が占めることから、CO₂ の削減に注力して取り組むこととします。

図 1 温室効果ガスの削減目標



出典：第二次日向市地球温暖化防止対策実行計画（事務事業編）P14 第 3 章 2 項

・削減対象とする温室効果ガス

市役所の全ての事務及び事業において削減対象となる温室効果ガスの種類と排出源は次の表のとおりです。

表 1 削減対象とする温室効果ガス

	温室効果ガス名	記号	地球温暖化係数※1	主な排出源
1	二酸化炭素	CO ₂	1	燃料の使用、電気の使用等
2	メタン	CH ₄	28	燃料の使用、自動車の走行、 下水の処理等
3	一酸化二窒素	N ₂ O	265	燃料の使用、自動車の走行、 下水の処理等
4	ハイドロフルオロ カーボン類	HFCs	1,300 ほか	カーエアコンの使用

※ 1 二酸化炭素の温室効果能力を「1」としたときの、各種温室効果ガスの温室効果能力。

・温室効果ガス総排出量

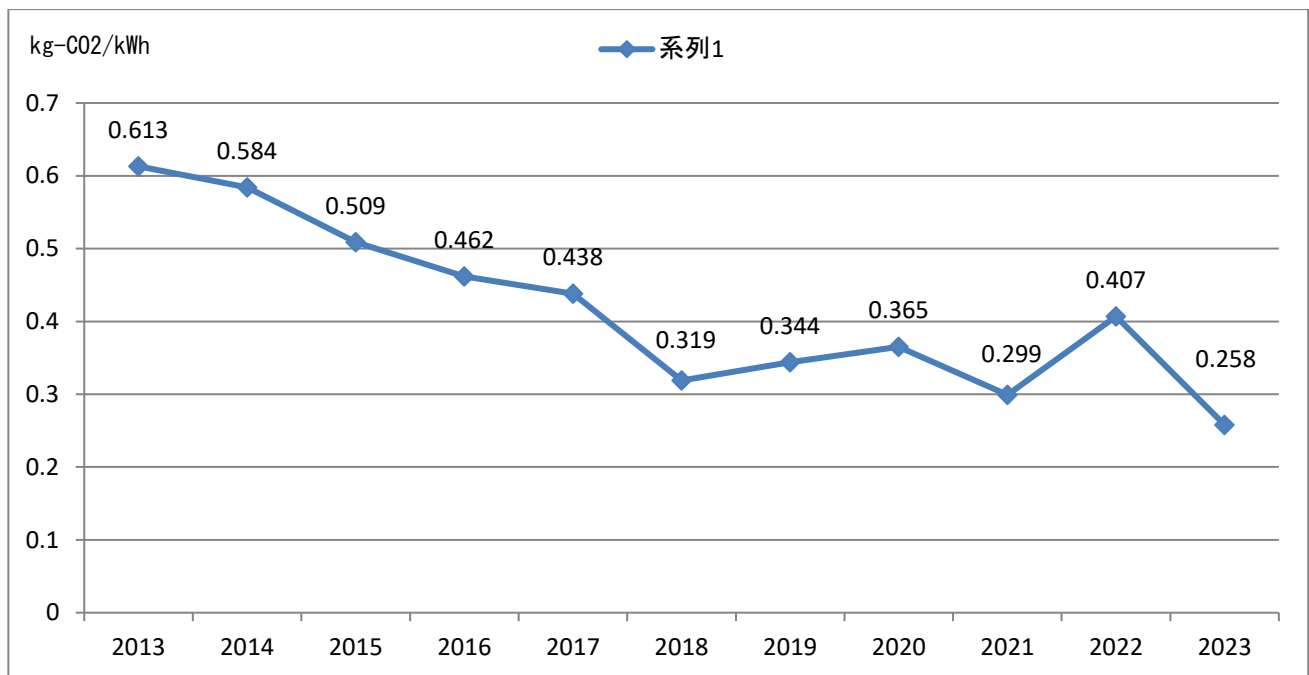
温室効果ガス 6,118 t-CO₂の減少

前年度から排出量が減少した理由としては、主な電力会社である九州電力株式会社のCO₂排出係数が減少したことによるものです（図3）。これは、販売電力量が減少する中、原子力発電所の高稼働に伴い、販売電力全体に占める火力発電電力の割合が減少したことが要因として挙げられます。

Stacked bar chart showing CO2 emissions (t-CO2) from 2013 to 2023, categorized by energy source. The total emissions decreased from 10,548 in 2013 to 4,430 in 2023. The categories include electricity, gasoline, A heavy oil, light oil, kerosene, gas (LPG), vehicle operation, wastewater treatment, electricity, kerosene, and car air conditioning use.

Year	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
Electricity	9,000	8,400	7,300	6,700	6,600	6,600	4,800	4,800	4,300	5,100	3,400
Gasoline	500	400	300	300	300	300	300	300	300	300	300
A Heavy Oil	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Light Oil	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Kerosene	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Gas (LPG)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Vehicle Operation	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Wastewater Treatment	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Car Air Conditioning Use	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
Total	10,548	9,801	8,706	8,301	8,011	8,127	6,461	6,064	5,262	6,208	4,430

図3 九州電力(株)のCO₂排出係数変化

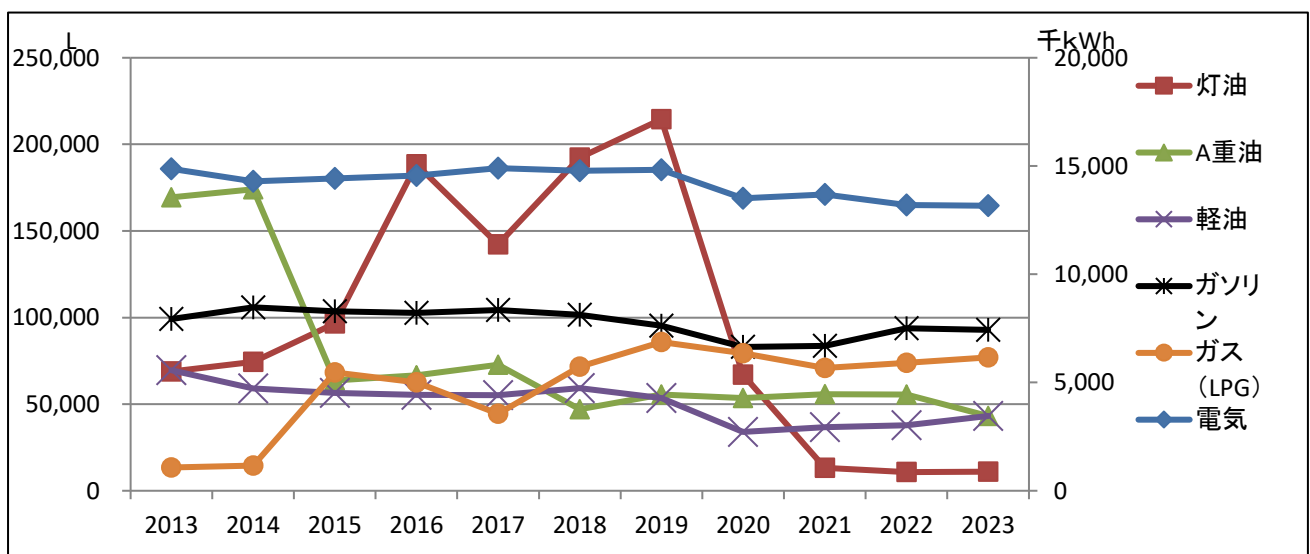


・種類別、年度別のエネルギー使用量

エネルギー使用量は、令和3（2021）年度以降ほぼ横ばいです。

令和4（2022）年度と比較すると、A重油の使用量は22%減少、軽油の使用量は14%増加しています。

図4 種類別エネルギー使用量

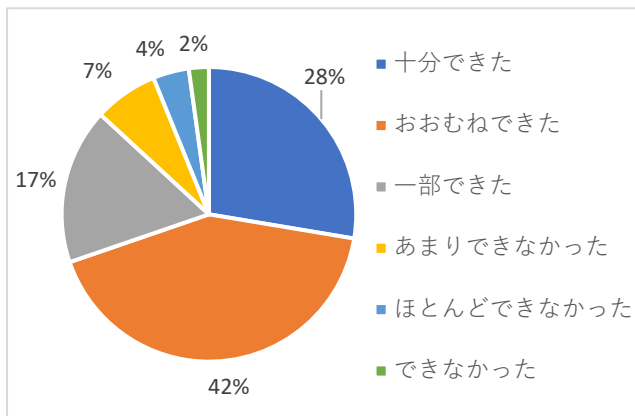


3 職員の意識向上

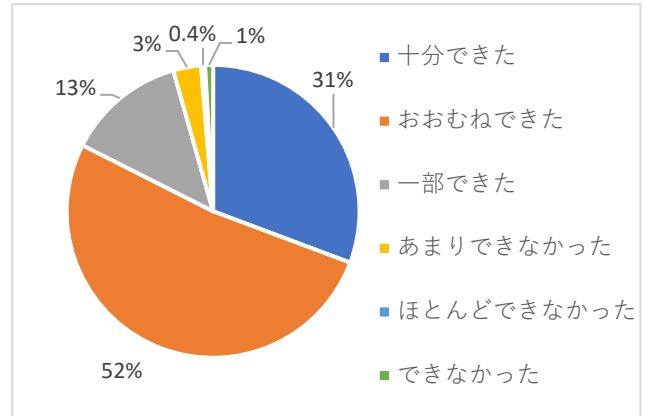
毎年、年度末に全職員に対して「温室効果ガス排出量削減のための取組チェック」を行っています。

令和5（2023）年度の調査では、ほとんどの項目において、「十分できた」「おおむねできた」という回答が令和4（2022）年度の数値を上回る結果となっています。

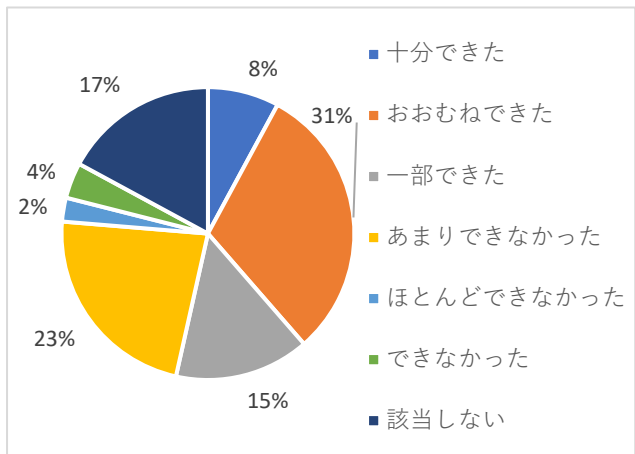
Q1 働き方を見直して残業時間を減らしましょう。



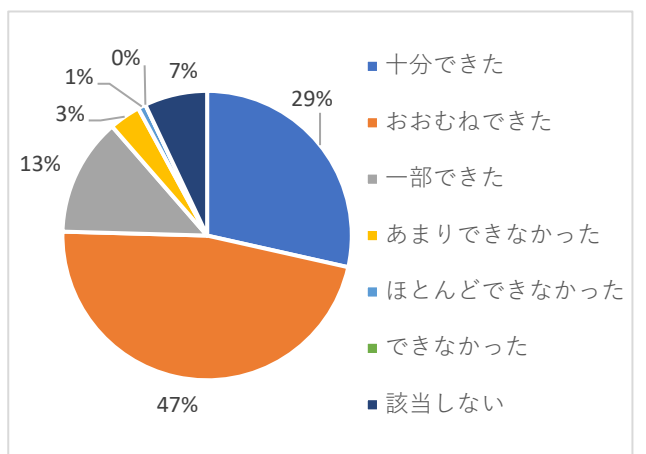
Q2 クールビズ、ウォームビズを実践しましょう。



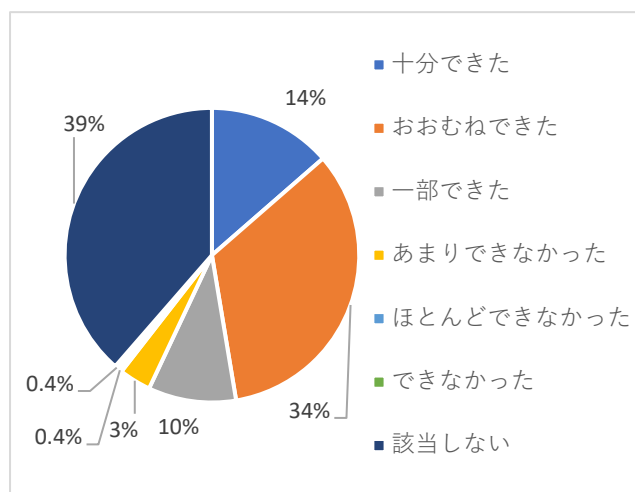
Q3 施設の閉館前や職員の退庁前など、いつもより15分早く空調設備の稼働を止めましょう。



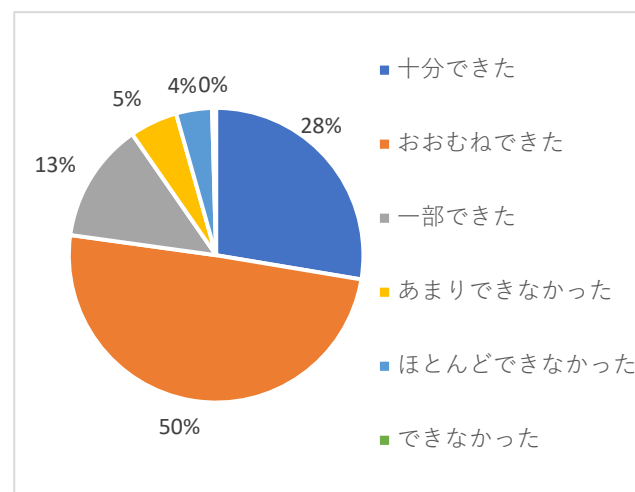
Q4 部屋を短時間しか使用しない場合は、空調設備の使用を控えましょう。また、空調設備を使用した場合には消し忘れに注意しましょう。



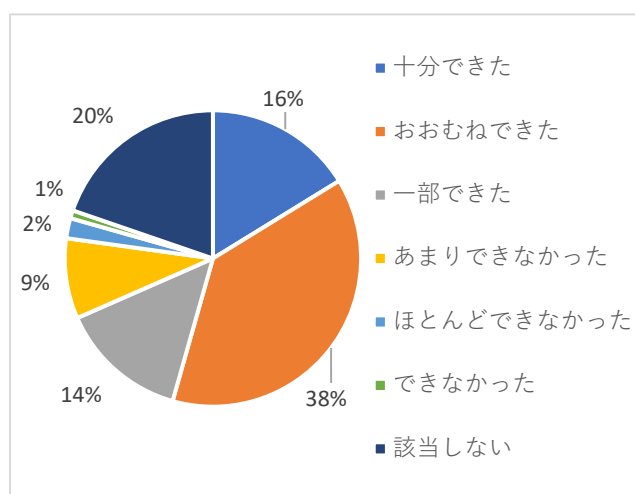
Q5 ブラインドやカーテンを使い、太陽の熱を賢く
利用し、空調設備に頼りすぎないようにしましょう。



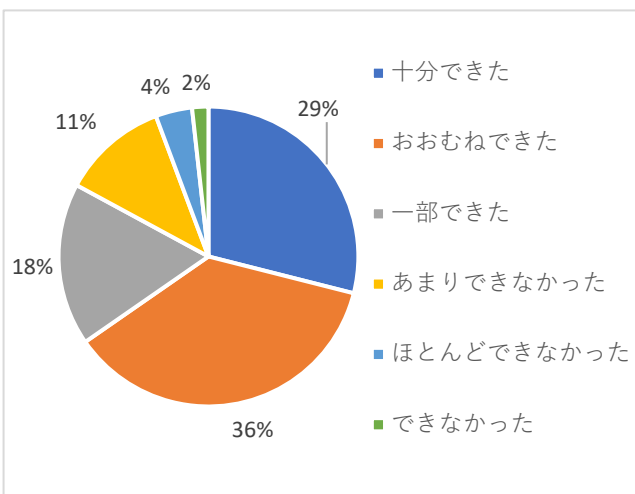
Q6 不在時や不要時に照明をこまめに消灯しましょう。
特に始業前、昼休み、残業時は、必要な照明のみ点灯
としましょう。



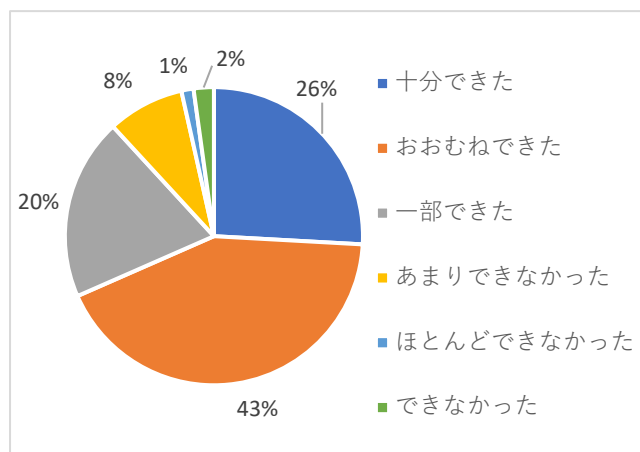
Q7 できるだけ窓際の照明の利用を控えて、自然の
光を積極的に利用しましょう。



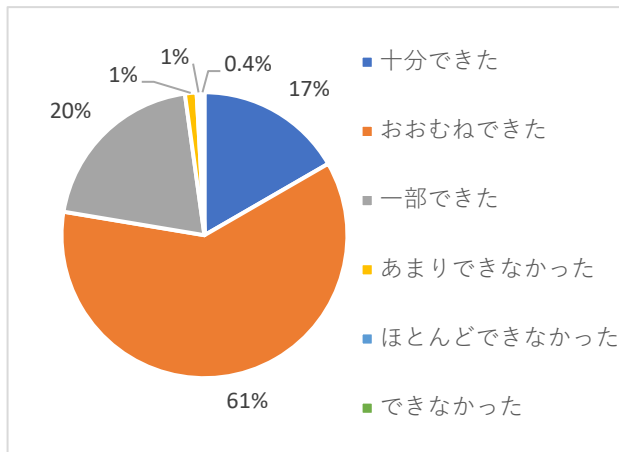
Q8 外出時や退庁時には、パソコンの電源を切りまし
ょう。



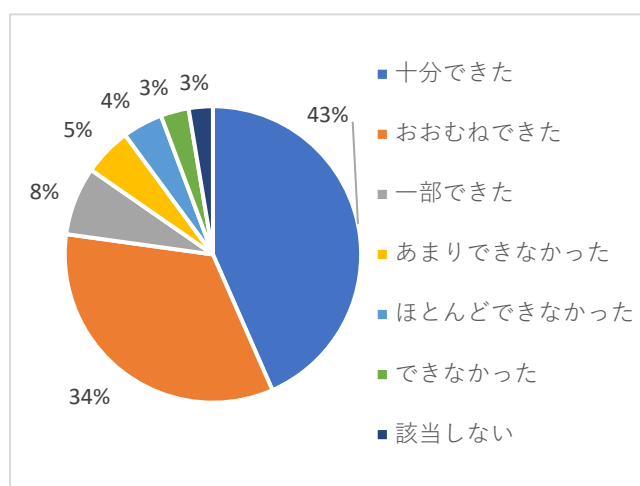
Q9 パソコン、プリンター、コピー機等を省エネモードに設定しましょう。



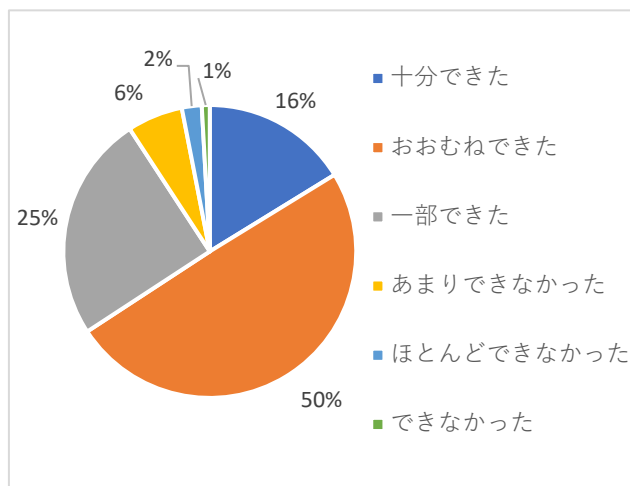
Q10 エコドライブ10のすすめを実行しましょう。



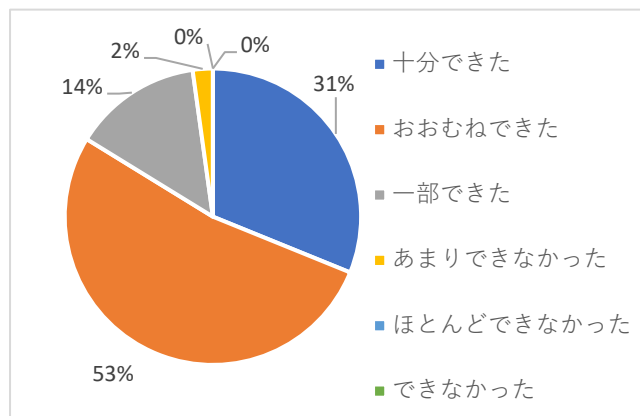
Q11 走行距離及び給油量を記録して、使用状況の管理を行いましょう。



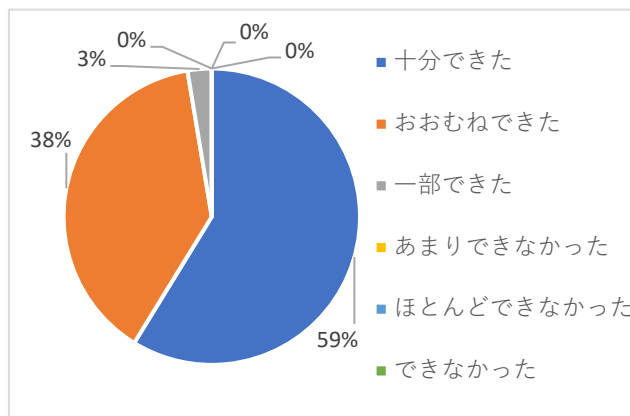
Q12 ファイリングシステムを活用して、個人で必要以上に資料を持たず、共有化を図りましょう。



Q13 両面印刷などパソコンの印刷設定により紙の使用量の削減に努めましょう。



Q14 適正処理のため、ごみの分別を徹底しましょう。



温室効果ガスの排出量の削減のために職場で自ら取り組んだ行動については、以下の取組が挙げられました。

- ・ 徒歩で通勤した。
- ・ 寒いときは、着衣を増やして対処した。
- ・ 紙媒体の課内回覧を基本的に廃止し、メッセージや LoGo チャットでの共有に努めた。
- ・ 研修は対面出席を避け、オンラインで受講した。
- ・ ごみの分別を徹底した。

4 今後の取組

令和 5（2023）年度の温室効果ガス総排出量は、基準年度である平成 25（2013）年度の総排出量と比較すると 58%減少となり、目標である 50%削減を達成しています。

しかし、エネルギーの使用量はほぼ横ばいの状況であり、引き続き、エネルギー効率の高い設備の導入や節電等、省エネルギーの取組を進める必要があります。

今後のCO₂排出係数の推移によっては、温室効果ガス総排出量も増加することが考えられますが、50%削減の状況が続けば、目標の見直しも検討していきます。

また、今年度は市全体を対象とした地球温暖化防止対策実行計画（区域施策編）を策定しました。今後は、「ゼロカーボンシティひゅうが」の実現に向け、一体的に温室効果ガス削減に取り組んでいきます。

日向市地球温暖化防止対策実行計画（事務事業編）

令和 5（2023）年度実績

令和 7（2025）年 3 月発行

日向市 市民環境部 環境政策課
宮崎県日向市大字富高 2 2 0 3 番地 1

電話 0 9 8 2 - 5 3 - 2 2 5 6（直通）

FAX 0 9 8 2 - 5 3 - 9 2 6 0